

修士課程 研究指導一覧

※第1期で募集があっても第2期には募集しない研究指導がある場合、当研究科ホームページに公開します。

※新規募集の研究指導を追加しました (2011.11.7)

◆修士課程 経済学専攻

コース名	研究領域名	専修名	指導教員名	指導言語(日本語:J/英語:E)		研究指導コード	
経済学 コース	経済理論	理論経済学	永田 良 教授	J	E	1A1	
			荻沼 隆 教授	J	E	1A2	
			荒木 一法 准教授	J	E	1A3	
			田中 久稔 准教授	J	E	1A4	
			笠松 学 教授	J	E	1A5	
			笹倉 和幸 教授	J	E	1A6	
			藤森 頼明 教授	J	E	1A7	
		数理経済学	船木由喜彦 教授	J	E	1A8	
		経済学説史	渡会 勝義 教授	J	—	1A9	
	若田部昌澄 教授		J	E	1Aa		
	統計・計量分析	計量経済学	近藤 康之 教授	J	E	2A2	
		統計学	西郷 浩 教授	J	E	2A3	
		経済統計	野口 和也 教授	J	—	2A4	
		数量経済政策	貞廣 彰 教授	J	—	2A5	
			上田 貴子 教授	J	E	2A6	
		産業エコロジー	中村慎一郎 教授	J	E	2A1	
		金融工学	玉置健一郎 准教授	J	E	2A7	
	経済史	西洋経済史	南部 宣行 教授	J	E	3A2	
		日本経済史	川口 浩 教授	J	—	3A3	
		アジア経済史	本野 英一 教授	J	E	3A5	
	経済政策	経済政策理論	△ 鈴村興太郎 教授	J	E	4A1	
			松本 保美 教授	J	E	4A2	
		産業組織論	堀内 俊洋 教授	J	—	4A3	
		農業経済学	×				
		金融論	×	藪下 史郎 教授	J	—	4A5
				小倉 義明 准教授	J	E	4A6
		比較政治経済論	清水 和巳 准教授	J	E	4A7	
	公共政策	社会政策	白木 三秀 教授	J	E	5A1	
		社会保障	清水 英彦 教授	J	—	5A2	
		労働経済学	村上由紀子 教授	J	E	5A3	
		公共経済学	須賀 晃一 教授	J	E	5A4	
		財政学	×	牛丸 聡 教授	J	—	5A5
				馬場 義久 教授	J	—	5A6
		環境経済学	有村 俊秀 教授	J	E	5A7	
	公共政策	福島 淑彦 教授	J	E	5A8		
	国際経済	国際経済論	□ 秋葉 弘哉 教授	J	E	6A1	
			石井 安憲 教授	J	—	6A2	
			内藤 巧 教授	J	E	6A3	
			金子 昭彦 准教授	J	E	6A6	
		開発経済論	深川由起子 教授	J	—	6A4	
		国際政治経済学	小西 秀樹 教授	J	E	6A5	

国際政治経済学 コース	国際経済論	□ 秋葉 弘哉 教授	J	E	6E1
		石井 安憲 教授	J	—	6E2
		内藤 巧 教授	J	E	6E3
		金子 昭彦 准教授	J	E	6E6
	開発経済論	深川由起子 教授	J	—	6E4
	国際政治経済学	小西 秀樹 教授	J	E	6E5
	経済政策理論	鈴木興太郎 教授	J	E	4E1
		松本 保美 教授	J	E	4E2
	公共経済学	須賀 晃一 教授	J	E	5E4
	環境経済学	有村 俊秀 教授	J	E	5E7
	公共政策	福島 淑彦 教授	J	E	5E8
	農業経済学	×			
	比較政治経済論	清水 和巳 准教授	J	E	4E7
	数量経済政策	貞廣 彰 教授	J	—	2E5
		上田 貴子 教授	J	E	2E6

×：2012年度学生募集を行わない、△：2012年度4月入学のみ募集、□：2012年度9月は募集を行う

※研究指導・授業科目および担当教員については、変更となる場合があります。

※研究指導教員名に付されている「×」印の教員は2012年度の学生募集は行ないません。

※研究指導教員名に付されている「△」印の教員は2012年度4月入学のみ募集します。

※研究指導教員名に付されている「□」印の教員は2012年度9月入学は募集します。

※英語での研究指導に対応する教員は、指導言語欄に”E”が表示されています。希望している指導教員が必ずしも英語による指導を行わないことがありますので、出願前に上表にて確認してください。

修士課程研究指導内容紹介

[経済学専攻 経済学コース]

研究指導名	理論経済学研究指導 —ミクロ経済学の数学的方法—	担当	教授 永田 良 博士（経済学）早大・京大
研究テーマ	<p>近代経済学の理論的中核を構成する一般均衡理論が研究の中心を成す。研究講義では日進月歩の勢いで研究が進められているこの分野の発展過程をふまえた上で具体的にいくつかのトピックスを取り上げ立ち入った検討を行う予定である。</p> <p>志望学生は、①特に一般均衡論とはいわないまでも少なくともミクロ経済理論に多大の関心を寄せるものであること、更に②研究指導上、数学的知識（しかも相当高度な）が大いに要求されるのでそれに堪えられるだけの能力、忍耐力を備えたものであることが望ましい。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導 —不確実性とゲームの理論—	担当	教授 荻沼 隆
研究テーマ	<p>経済理論、特に選択理論とゲーム理論の研究を、限定合理性と不確実性の観点を重視して行う。また、このような研究が市場理論や契約理論や組織の理論にどのような影響を及ぼすのかを考える。この研究指導では、このような研究関心に基づき適当なテキストおよび論文を読む予定である。</p> <p>志望学生は、ミクロ経済学、マクロ経済学、ゲーム理論のある程度の予備知識と分析的な研究のための数学の基礎知識が要求される。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導	担当	准教授 荒木 一法
研究テーマ	<p>本研究指導は、ゲーム理論と契約理論に立脚した個人・集団行動の分析力を養成することを主たる目的とします。まず、ゲーム理論、契約理論、ならびにそれらの応用分野、オークション理論や交渉理論等に関する基礎知識を習得した上で、履修者が関心を持つ分野について論文を書くために必要な諸準備をすすめます。その際、特に、履修者の研究論文を正確に理解する力と、プレゼンテーション能力の向上を特に意識してゼミをすすめます。履修希望者には、①大学院初級レベルのミクロ経済学の理解に必要な、学部レベルミクロ経済学ならびに数学・英語に関する一定水準の知識を備えて入学すること、②教員および他の学生との議論に積極的に参加すること、③将来の進路について明確なビジョンをもつこと、を求めます。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導	担当	准教授 田中 久稔
研究テーマ	<p>経済学の様々な場面で用いられる数学的・統計学的分析手法の基礎を学ぶ。受講生の関心に応じて、計量モデルの識別性、推定量の効率性や漸近特性などからトピックを選ぶ。ただし、数学的な内容よりも、経済学への応用が重視される。履修希望者には解析学・位相数学に関するある程度の知識が要求される。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導	担当	教授 笠松 学
研究テーマ	<p>生産と分配の理論、特に、交換と消費の理論から派生した分配理論との比較・検討に関心がある。</p> <p>これまで、例えば A New Guide to Post-keynesian Economics などをテキストにして、広く「ポスト・ケインジアン」と呼ばれる理論を検討してきた。来年度も類書あるいは適当な論文をテキストとして使用する予定である。</p>		

研究指導名	理論経済学研究指導—マクロ経済理論—	担当	教授 笹倉 和幸 博士（経済学）（早大）
研究テーマ	マクロ経済理論を研究する。扱う主なモデルとしては、伝統的または新しいケインズモデルや、新古典派的な最適成長モデル、世代重複モデルである。最初の1年間で自分に合ったマクロ経済学の最新のテーマを探し、次の1年間で修士論文の完成に向けて研究することになる。		

研究指導名	理論経済学研究指導	担当	教授 藤森 頼明 経済学博士（北大）
研究テーマ	研究テーマは‘資本理論の理論と応用’である。即ち、Ricardo、Marx 以来、Sraffa、Post-Keynesian、レギュラシオン学派にわたる‘分配と成長’の問題意識を理論的、実証的、実験的に、出来る限り多角的に検討したい。詳略については、指導教員の homepage を参照のこと。		

研究指導名	数理経済学研究指導 —ゲーム理論（発展）とその応用—	担当	教授 船木由喜彦 理学博士（東工大）
研究テーマ	<p>ゲーム理論およびその応用の研究を行う。ゲーム理論は情報の経済学、産業組織論、国際経済学、環境経済学、経営学、政治学、社会学、生物学など多くの分野で用いられる重要な理論的分析手法である。相手が存在し相手も合理的な行動をとるということを前提に、個人の合理的な行動を厳密に定義することからはじめ、社会・経済など相互依存関係のある状況における各個人の合理的な意志決定およびその帰結を研究する。</p> <p>ゲーム理論は大別して非協力ゲームの理論（標準形・展開形ゲーム）と協力ゲームの理論（提携形ゲーム）に分けられ、両理論を並行して修得することが必要である。そのためには数理経済学研究、特論等の受講や大学院生向けセミナーへの積極的な参加が要請される。この研究指導ではこれらの知識をもとに、受講者の興味に従い、関連する論文の講読、研究、議論を行う。</p> <p>なお、ゲーム理論、ミクロ経済学の基礎的な知識、および、解析学、位相数学の初等的な知識を必要とする。</p>		

研究指導名	経済学説史研究指導	担当	教授 渡会 勝義
研究テーマ	<p>主な研究テーマは、イギリス古典派経済学（特に19世紀）とケインズ革命である。しかし研究指導はこの範囲にかぎらず、経済学史あるいは経済思想史研究を目指す者であればよい。英語の読解力は不可欠であり、大陸ヨーロッパの経済学史・経済思想史研究を目指す場合には、当然のことながら英語以外に当該のヨーロッパ言語の読解力を持っていないといけない。経済学史あるいは経済思想史の研究をするにはさまざまな知識と現代の経済問題に関心を持つことが必要であるので、広い知的関心と問題意識のある人の参加を期待する。</p>		

研究指導名	経済学説史研究指導 —経済政策思想史入門—	担当	教授 若田部昌澄
研究テーマ	<p>この研究指導では、歴史を題材にして経済知識と経済政策の接点を探る。その接点としては、経済学者の政策関与、経済知識の多様性（経済学者、エコノミスト、政治家、中央銀行総裁、官僚、メディアの経済理解）、政策決定過程の政治経済学といった多様な点が考えられる。この研究指導では思想史の観点を強調して政策における経済知識の役割を中心に考察する。研究の題材としては、マクロ経済、貿易、国際金融、産業組織、社会保障制度などいくつかの題材が考えられる。研究指導では参加学生の研究関心に応じて題材を絞る予定である。</p> <p>研究指導は基礎的研究文献の読解と討論、および学生の発表によって進めていく。また、可能な限り第一線の政策思想史研究者および政策担当者による特別講義も企画したいと考えている。</p> <p>参加を希望する学生には中級のミクロ経済学、マクロ経済学の知識と、英文文献を大量に読む読解力が必須である。</p>		

研究指導名	計量経済学研究指導	担当	教授 近藤 康之 博士（社会経済）（筑波大）
研究テーマ	<p>本研究指導の目的は、応用ミクロ計量経済分析（産業連関分析を含む）および関連する計量経済理論的研究を行うことにある。応用分析対象の基礎となる経済理論の学習、関連先行研究の文献調査等、および研究科授業科目では扱われない計量経済学方法論について指導を行う。</p> <p>学部水準の計量経済学（例えば、山本拓『計量経済学』新世社（1995）程度）についての十分な知識と、より進んだ研究学習に必要な学部水準の基礎学力（経済理論、統計学、解析学、線形代数、確率論）の習得を前提とする。</p>		

研究指導名	統計学研究指導	担当	教授 西郷 浩
研究テーマ	<p>—経済統計データの作成・分析に関する統計理論的研究—</p> <p>本研究の目的は、経済統計データの収集・分析に関連する統計理論的・実証的研究をおこなうことにある。おもなトピックとして、標本調査論、リサンプリング法、回帰分析を主とした多変量解析法、時系列分析法などがあげられる。担当者（西郷）のもっとも得意とする分野は、標本調査論とリサンプリング法（とくにその標本調査論への応用）である。しかし、学生の希望に応じて他の分野も適宜とりあげる。</p> <p>統計分析には計算が不可欠であるから、コンピュータの利用は必須である。統計理論についても、少なくとも基礎的な知識（統計的推定・検定、最小二乗推定量など）をもっていることが望ましい。</p>		

研究指導名	経済統計研究指導	担当	教授 野口 和也
研究テーマ	<p>本研究では、統計学の理論的研究とその経済分析への応用を主題とする。本年度は回帰分析・多変量解析などを中心に研究を進める予定である。</p> <p>あらかじめ学部において、統計理論の基礎と経済学に関する幅広い知識を習得していることを前提とする。また、コンピュータの積極的な利用も不可欠である。</p>		

研究指導名	数量経済政策研究指導	担当	教授 貞廣 彰
			経済学博士 (京大)
研究テーマ	<p>本コースはマクロ実証分析を行う上での応用計量経済学を学ぶことを目的とする。前期においては時系列分析にかかるテーマをとりあげる。具体的には、①定差方程式、②定常時系列モデル、③不均一分散 (ARCH、GARCH)、④トレンドを有するモデル、⑤多変量時系列モデル、⑥共和分と誤差修正モデル、⑦基礎的な非線形モデルをとりあげる。</p> <p>また、後期においては、①カルマンフィルターモデル、②周波数分析、③レジーム変化モデル (マルコフスイッチングモデル)、④基礎的なカリブレーションモデルを取り上げる。</p> <p>なお、本研究のためには、学部レベルのマクロ経済学および、計量経済学をマスタしていることが不可欠である。また、汎用性ソフトである EVIES を購入する必要がある。</p>		

研究指導名	数量経済政策研究指導 —ミクロの実証分析—	担当	教授 上田 貴子
			Ph. D. (ウィスコンシン大マディソン校)
研究テーマ	<p>本研究指導では、ミクロデータ及びパネルデータによる実証分析を研究課題とします。実証分析のためには、関連分野の経済理論モデルの理解、統計・計量経済学の知識、及びコンピュータスキルが不可欠となります。研究指導では、(参加者の興味による) 関連分野及び計量経済学手法の英語文献の輪読、関連データのサーチ、計量経済分析ソフトによるプログラミングと分析を行います。なお、パネルデータ分析以外の時系列分析手法は扱いません。</p>		

研究指導名	産業エコロジー研究指導	担当	教授 中村慎一郎
			Dr. rer. pol. (ボン大)
研究テーマ	<p>経済と環境の相互依存関係を探求し、持続可能経済の達成を計るのが産業エコロジー学 (Industrial Ecology, IE) の目的である。このために重要な課題が経済活動の及ぼす環境負荷を定量的に評価することである。そこでは、経済と環境の関連を現実的かつ操作可能な形で表現する数理モデルが中心的な役割を果たす。この種のモデルとして近年注目されているのが産業連関モデルである。本指導では、履修者の研究関心を考慮した上で IE への応用を念頭に置いた産業連関モデルの理論と応用、及びその周辺領域を扱う。指導の目的は関連 IE 分野における主要な研究成果を踏まえた修士論文を作成することである。</p>		

研究指導名	金融工学研究指導	担当	准教授 玉置健一郎
			博士 (理学) (早大)
研究テーマ	<p>本研究指導では、従属性をもつデータの統計解析手法である時系列解析について学び、それらの手法を経済・金融データの分析に応用することを目的とする。実際には、関連分野の文献の輪読と、コンピュータによるデータ分析やシミュレーションを行う。さらに、本研究で必要となる数学および統計学の知識を同時に学ぶ。</p>		

研究指導名	西洋経済史研究指導	担当	教授 南部 宣行
研究テーマ	<p>第1次大戦までのイギリス社会経済史全般を主たる研究対象としており、資本輸出(対外投資)、生活水準、鉄鋼業(とくに南ウェイルズ)等をめぐる諸問題を中心に検討している。但し、近年、第2次大戦以降の経済動向についても研究対象に加えている。方法論としては、歴史学の伝統的な実証的方法のみならず、とくに Historical Economics (歴史経済学、数量経済史) でとられている手法を積極的に取り入れていくこと、現代の諸問題との関連に関心があり、インターネットを利用する情報の交換・共有を積極的に推進したいと考えている。</p>		

研究指導名	日本経済史研究指導	担当	教授 川口 浩
研究テーマ	<p>本研究指導では、近世～近代における日本経済の実態、並びに日本経済の担い手たちの経済思想の歴史的分析を目指している。受講者は日本経済史・経済思想史に属する諸問題の中から自己の研究テーマを選択することができる。受講に際しては、日本経済史・経済思想史に関する学部授業程度の基礎的知識を習得していることが必須であり、さらに近年における研究成果に一通り目を通してることが望ましい。また、隣接諸領域に対する幅広い関心を保持することも大切である。歴史研究では、史料の収集と解説という地道な作業が求められることを付言しておく。</p>		

研究指導名	アジア経済史研究指導	担当	本野 英一 教授 D. Phil. (オックスフォード大)
研究テーマ	<p>日清戦争前夜から中華人民共和国成立直後にかけての中国とイギリス、日本、アメリカとの経済関係史を主たる研究対象としている。単なる外交史だけでなく都市経済、中国商人団体(ギルド、商会等)や在華外国企業を主体とする生産要素市場、国家財政の歴史的特徴への歴史的理解を深めることを目標とする。従って中国語で書かれた史料はもとよりイギリス・アメリカ側外交文書を解説し、論文が書ける能力を培うことを要求する。</p>		

研究指導名	経済政策理論研究指導	担当	特任教授 鈴木興太郎 経済学博士(一橋大)
研究テーマ	<p>この演習では、経済政策の基礎理論を学ぶ目的で、以下のような講義とそれに基づく討議を行う予定である。参加者には、ミクロ経済理論に関する十分な素養、論理的に問題を突き詰める思考の能力と意思、多数の参考文献を精密に読む努力を求めたい。</p> <p>第1講 制度と政策の社会的選択 第2講 多数決投票の逆理とアローの一般不可能性定理 第3講 厚生経済学の新と旧 第4講 社会的選択の情報的基礎：厚生主義とその批判 第5講 厚生と権利：厚生主義を越えて 第6講 選択機会の内在的価値 第7講 選択手続きの内在的価値 第8講 競争・厚生・自由 第9講 責任と補償のパラダイム 第10講 次善の厚生経済学 第11講 世代間衡平性の厚生経済学 第12講 規範的経済学と経済システムの設計</p>		

研究指導名	経済政策理論研究指導	担当	教授 松本 保美
	一経済政策のための基礎理論の研究一		D. Phil (オックスフォード大)
研究テーマ	<p>本指導は、時間の制約と重要性の面から、社会的選択理論を中心とした基礎理論の研究に的を絞る。基礎理論の上に経済理論が構築され、その上で経済政策が立案されるからである。日本語の文献が殆どない上に、数理論理学と集合論を駆使した定理の証明が中心になるので、参加者には英語と数学の素養が求められる。ミクロ経済学とゲーム理論の知識のあることが望ましい。いわゆる経済政策論や分析は一切扱わないので注意のこと。本講義は全て英語で行われる。</p>		

研究指導名	産業組織論研究指導	担当	教授 堀内 俊洋
研究テーマ	<p>今日、日本だけでなく世界各国とも、システムの見直しや新しい政策が求められている。その場合、もちろんマクロ政策は重要であるが、適切なマクロ政策とあわせて、規制緩和や構造改革に象徴されるように、ミクロ政策の運営がとりわけ重要になっている。このような問題意識から、研究指導目標は、主には日本の特定の産業や活動を選び、そのダイナミックな変化を実証的に考察し、論文にまとめることである。産業組織論はミクロ経済学の応用であることはいまでもなく、産業組織論はある程度の理論や数学を必要とするが、論文を完成させるためにはそれだけでなく制度や実態について幅広い素養を身に付けようという態度も要求される。数学的な素養や努力がなければ産業組織論の理解は困難だが、モデルだけで現実の興味深い現象を説明できないこともまた事実だからである。このような幅広い興味と能力を身につけようという学生諸君の熱意と精進があれば、論文は自ずと完成されるだろうと思います。</p>		

研究指導名	農業経済学研究指導	担当	
研究テーマ	●2012年度は、学生の募集は行なわない。		

研究指導名	金融論研究指導	担当	教授 藪下 史郎
			Ph. D. (イエール大)
研究テーマ	<p>●2012年度は、特別研究期間制度のため、学生の募集は行なわない。 本講義においては、非対称情報また不完全市場に注目しながら金融市場と銀行行動に関係する諸問題を考察し分析する。それらの問題はミクロ経済学的側面とマクロ経済学的側面の両方をふくんでいる。 したがってミクロ経済学とマクロ経済学をマスターしていることが望まれる。 さらに金融制度に関して理論的かつ歴史的分析を行うが、今後の研究のために計量分析手法が有用である。</p>		

研究指導名	金融論研究指導	担当	准教授 小倉義明
			Ph.D. in Economics, Columbia University
研究テーマ	<p>本研究指導では、金融論に関する基本文献のうち、金融契約理論と金融仲介理論に関するものを輪読することで、銀行理論あるいは企業金融をテーマとする修士論文作成に不可欠な基礎概念・理論・分析手法を習得することを目指す。このような応用分野では、ミクロ経済学（とりわけ情報の経済学）、計量経済学、マクロ経済学を総動員する必要がある、それぞれについて学部上級レベル以上の知識が最低限必要とされる。以下の参考文献から、本研究指導の対象となっている分野の概要を窺い知ることができる。 (参考文献) Freixas, X., and J-C. Rochet, 2008, <i>Microeconomics of Banking 2nd ed.</i>, MIT Press. Tirole, J., 2006, <i>The Theory of Corporate Finance</i>, Princeton Univ Press.</p>		

研究指導名	政治経済学方法論研究指導	担当	准教授 清水 和巳 Doctrat de Théorie Economique Université de Grenoble II
研究テーマ	経済学と政治学は伝統的に異なった学問としてみなされてきた。しかしながら、両学問分野の分析対象は、個々人あるいは個々のグループの意思決定や選択の相互作用の結果生じたものである。このような観点にたち、政治経済学の研究に必要な研究手法—統計分析、数理モデル、実験、シミュレーション、世論調査、規範理論など—の方法論的位置づけを吟味し、ついで、その応用について具体的な政治経済現象の分析例を示す。		

研究指導名	社会政策研究指導	担当	教授 白木 三秀 博士（経済学）（早大）
研究テーマ	本研究指導では、外部労働市場および内部労働市場で生起する労働諸問題ならびにそれへの対応としての労働諸政策の理論的、実証的研究を幅広く行う。幅広く行うということは、国際比較研究を含み、また企業内の人的資源管理の研究もこれに含めることを意味する。当該分野における問題意識が強く、地道なフィールドワークを厭わない活力に富む人材の参加を歓迎する。		

研究指導名	社会保障研究指導	担当	教授 清水 英彦
研究テーマ	高齢化とグローバル化が進行する中で、福祉国家においては社会保障制度改革が共通の課題となっている。そこで本研究指導では、社会保障制度の歴史的展開を基礎におきながら、理論的あるいは実証的な方法により社会保障制度を経済学的に分析することを目指す。とくに福祉国家における社会保障制度改革が意味するものを、その経済的効果を分析することにより明らかにしたい。		

研究指導名	労働経済学研究指導	担当	教授 村上由紀子 博士（経済学）（早大）
研究テーマ	本研究では、学生が労働経済学に関する理解を深め、経済学の分析ツールや理論的フレームワークを利用して、労働市場の作用や結果、労働の現場で生起している諸問題について理論的・実証的に研究するよう指導する。労働に関する具体的な研究テーマの選択は参加者に任せられ、また、研究対象は日本国内ばかりではなく、海外の国々も含み、国際比較や国際関係の分析にも及ぶ。マクロ経済学、ミクロ経済学、統計学、計量経済学、政策、制度、歴史など、幅広い分野の知識と関心を持ち、根気強くデータを収集することも必要である。		

研究指導名	公共経済学研究指導	担当	教授 須賀 晃一 経済学博士（一橋大）
研究テーマ	この講義では、修士論文作成のための基礎力養成を目的として、公共経済学の理論に関する基本文献を輪読する。具体的な研究テーマとしては社会的選択、制度設計と価値理念、租税論、社会保障論、環境問題などの領域を考えている。中級程度のミクロ経済学（数学的手法も含む）の修得を前提として講義を進める。開講時まで、スティグリッツ『公共経済学』（上、下）東洋経済新報社、2003、2004年。を読んでおくこと。 参考文献：J. Hindriks and G. D. Myles, <i>Intermediate Public Economics</i> , MIT Press, 2006. B. Salanie, <i>Microeconomics of Market Failures</i> , MIT Press, 2000. A. L. Hillman, <i>Public Finance and Public Policy</i> , Cambridge UP, 2003. J. Leach, <i>A Course in Public Economics</i> , Cambridge UP, 2003. A. L. Hillman, <i>Public Finance and Public Policy</i> , Cambridge UP, 2003. J. Stiglitz, <i>Economics of Public Sector</i> , Norton, 2000. L. Kaplow, <i>The Theory of Taxation and Public Economics</i> , Princeton UP, 2008.		

R. W. Tresch, *Public Sector Economics*, Palgrave Macmillan, 2008.

研究指導名	財政学研究指導 —社会保障財政・税制・地方財政—	担当	教授 牛丸 聡
			博士（経済学）（東大）
研究テーマ	<p>本コースの目的は、財政学を研究することである。財政学は様々な話題を含んでいる。例えば、税金、国債、政府支出、社会保障、地方財政等々である。そのなかでも、私は特に社会保障制度に関心をもっている。</p> <p>本修士課程において財政学を研究しようと思う学生は、ミクロ・マクロ経済学、公共経済学等々に関する必要な知識を習得していることを求められる。加えて、研究に対する強い意欲と努力が求められる。</p>		

研究指導名	財政学研究指導	担当	教授 馬場 義久
研究テーマ	<p>私の主要な関心は租税論・税制論にあるが、本研究指導は、財政学の領域に属する問題全般を対象とする。修士課程入学を志す諸君にあつては、あらかじめ、財政学のうちの領域のどの問題を自己の研究テーマとするのか、さらにどのような方法で研究を進めるのか、明確にしておいてほしい。そして、今日の財政学は諸君が想像する以上に応用経済学としての性格を強めているので、学部段階の財政学はもとより、基礎的なミクロ経済学とマクロ経済学をマスターしていることが肝要である。</p>		

研究指導名	環境経済学研究指導	担当	教授 有村俊秀
			Ph. D (ミネソタ大学)
研究テーマ	<p>応用ミクロ経済学としての環境経済学の研究を、実証研究を中心としたアプローチで行う。そのため、大学院初級レベルのミクロ経済学や、学部水準の計量経済学の知識を前提とする。研究指導では、これらの知識をもとに、関連する論文（英文含む）等の輪読を行う。特に、マイクロデータを用いた計量の手法の習得が必要となる。</p>		

研究指導名	公共政策研究指導	担当	教授 福島淑彦
			Ph. D. (Stockholm University)
研究テーマ	<p>本研究指導は、広い意味での「労働経済学」を基礎として、「社会」の厚生水準を高めるための政策や制度について、経済学視点で理論的或いは実証的アプローチで研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「公共政策」であるが、研究内容は主に「雇用」、「失業」、「人的資本」、「賃金」、「教育」、「訓練」、「労働市場における差別」、「転職」、「家庭内労働」、「労働組合」、「福祉」といった「人が働くこと」に関する政策や制度を中心に、修士論文作成のための研究をサポートする。教材には、英文論文や英文テキストを用いるので、それらを読みこなすための「経済学」「数学」の基礎知識に加えて、英語力が必要となる。</p>		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 秋葉 弘哉
			Ph. D. (ニューヨーク州立大)
研究テーマ	<p>国際経済学のうち、特に開放マクロ経済学を中心に研究する。開放マクロ経済学は閉鎖マクロ経済学の開放版という側面ももっているから、閉鎖マクロ経済学についての基礎的知識をもっていること、並びにそのマイクロ・ファウンデーションについても十分理解していることが極めて望ましい。</p>		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 石井 安憲
			経済学博士（一橋大）
研究テーマ	<p>国際寡占による直接投資、貿易、生産、環境汚染と戦略的最適政策</p> <p>経済の結びつきが国際化した今日においては、様々な経済問題を国際的視点から把握し分析する能力が要請される。本研究指導では、一年目は、かかる能力を開発するため、</p>		

	貿易・直接投資と地球規模での環境劣化、国際寡占と戦略的貿易政策、国際的経済摩擦等に関する国際経済問題に関する優れた論文を研究し、そして、二年以降は、国際経済に関する研究課題を選択し修士論文を完成しなければならない。学生諸君は、中級程度のミクロ経済学および数学的手法を修得していることが必須である。	
--	--	--

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 内藤 巧 博士（経済学）（阪大）
研究テーマ	国際貿易理論の代表的な論文を精読する。論文は主に AER, EMA, QJE, JPE, RES のトップ5 ジャーナルか JIE などのトップフィールドジャーナルの論文から選ばれる。経済学部上級レベルの国際貿易、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学、数学の知識が必要である。この研究指導（国際貿易理論）は国際貿易の実証分析、国際金融・国際マクロ経済学、貿易実務等を研究する学生のためのものではない。志望者は < http://www.f.waseda.jp/tnaito/forapplicants.html >を読むことが必要である。		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	准教授 金子 昭彦 博士（経済学）阪大
研究テーマ	修士課程においては、広く動学マクロ経済学を元にした国際マクロ経済理論、もしくは貨幣経済理論について指導する。具体的には：国際資本移動と経済成長の関係、貨幣政策と経済成長および厚生などである。1年目は自ら文献を熟読し研究テーマを探し、2年目に実際に論文作成を始める。 学生は、学部レベルのミクロ経済学、及びマクロ経済学の知識はもとより、英語専門論文を読むための能力も必要とされる。		

研究指導名	開発経済論研究指導	担当	教授 深川由起子
研究テーマ	変遷めまぐるしい経済開発論は英語圏では南西アジア、アフリカなどをフィールドとし、「市場メカニズムの機能不全」を前提とした、農業・農村部門の応用ミクロ経済分析が主流となっている。他方、日本や東アジアでは多くの「卒業国」の経験から外向き開発戦略に関心が集中し、国際経済学やマクロ分析からの接近が主流となっている。演習では前半で市場分断、労働移動、家計、信用市場など一通り主流の考え方を学ぶ。その上で、後半では経済的テイクオフを終え、工業化が加速する東アジア経済の実証研究を踏まえつつ、貿易、直接投資、援助、債務問題、構造調整、経済統合などと国際開発の諸問題に取り組み、両者の発想の違いにも理解を深めることを目指す。学部レベルのミクロ経済学、国際経済学を履修済みであることが望ましく、論文の読める英語力は必須である。		

研究指導名	国際政治経済学研究指導	担当	教授 小西 秀樹 経済学博士（東大）
研究テーマ	公共経済学、公共選択論を基礎として、政策決定のメカニズムとその帰結、あるべき制度の構築について、理論的あるいは実証的に研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「国際政治経済学」だが、研究内容は「新政治経済学」であり、国際政治や国際経済に特化したテーマとは基本的に無関係なので注意せよ（研究テーマの例としては、たとえば小西秀樹「公共選択の経済分析」（東大出版会）を参照せよ）。教材には最先端の英文論文や大学院レベルの英文テキストを用いるので、それらを読みこなすのに最低限必要なレベルの経済学、数学についての知識、および英語力を持っていることが必要である。経済学については、①ミクロ経済理論、②非協力ゲーム理論、③計量経済学の基礎を、学部上級レベルで一通り習得していること、数学については、実数解析、線形代数、最適化理論について、最低限、理科系の大学受験レベルで習得していることを受講生に求める。		

[経済学専攻 国際政治経済学コース]

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 秋葉 弘哉 Ph. D. (ニューヨーク州立大)
研究テーマ	国際経済学のうち、特に開放マクロ経済学を中心に研究する。開放マクロ経済学は閉鎖マクロ経済学の開放版という側面ももっているから、閉鎖マクロ経済学についての基礎的知識をもっていること、並びにそのマイクロ・ファウンデーションについても十分理解していることが極めて望ましい。		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 石井 安憲 経済学博士 (一橋大)
研究テーマ	国際寡占による直接投資、貿易、生産、環境汚染と戦略的最適政策 経済の結びつきが国際化した今日においては、様々な経済問題を国際的視点から把握し分析する能力が要請される。本研究指導では、一年目は、かかる能力を開発するため、貿易・直接投資と地球規模での環境劣化、国際寡占と戦略的貿易政策、国際的経済摩擦等に関する国際経済問題に関する優れた論文を研究し、そして、二年以降は、国際経済に関する研究課題を選択し修士論文を完成しなければならない。学生諸君は、中級程度のミクロ経済学および数学的手法を修得していることが必須である。		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	教授 内藤 巧 博士 (経済学) (阪大)
研究テーマ	国際貿易理論の代表的な論文を精読する。論文は主に AER, EMA, QJE, JPE, RES のトップ5ジャーナルか JIE などのトップフィールドジャーナルの論文から選ばれる。経済学部上級レベルの国際貿易, ミクロ経済学, マクロ経済学, 計量経済学, 数学の知識が <u>必要</u> である。この研究指導 (国際貿易理論) は国際貿易の実証分析, 国際金融・国際マクロ経済学, 貿易実務等を研究する学生のためのもの <u>ではない</u> 。志望者は http://www.f.waseda.jp/tnaito/forapplicants.html を読むことが <u>必要</u> である。		

研究指導名	国際経済論研究指導	担当	准教授 金子 昭彦 博士 (経済学) 阪大
研究テーマ	修士課程においては、広く動学マクロ経済学を元にした国際マクロ経済理論、もしくは貨幣経済理論について指導する。具体的には：国際資本移動と経済成長の関係、貨幣政策と経済成長および厚生などである。1年目は自ら文献を熟読し研究テーマを探し、2年目に実際に論文作成を始める。 学生は、学部レベルのミクロ経済学、及びマクロ経済学の知識はもとより、英語専門論文を読むための能力も必要とされる。		

研究指導名	開発経済論研究指導	担当	教授 深川由起子
研究テーマ	変遷めまぐるしい経済開発論は英語圏では南西アジア、アフリカなどをフィールドとし、「市場メカニズムの機能不全」を前提とした、農業・農村部門の応用ミクロ経済分析が主流となっている。他方、日本や東アジアでは多くの「卒業国」の経験から外向き開発戦略に関心が集中し、国際経済学やマクロ分析からの接近が主流となっている。演習では前半で市場分断、労働移動、家計、信用市場など一通り主流の考え方を学ぶ。その上で、後半では経済的テイクオフを終え、工業化が加速する東アジア経済の実証研究を踏まえつつ、貿易、直接投資、援助、債務問題、構造調整、経済統合などと国際開発の諸問題に取り組み、両者の発想の違いにも理解を深めることを目指す。学部レベルのミクロ経済学、国際経済学を履修済みであることが望ましく、論文の読める英語力は必須である。		

研究指導名	国際政治経済学研究指導	担当	教授 小西 秀樹 経済学博士（東大）
研究テーマ	<p>公共経済学、公共選択論を基礎として、政策決定のメカニズムとその帰結、あるべき制度の構築について、理論的あるいは実証的に研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「国際政治経済学」だが、研究内容は「新政治経済学」であり、国際政治や国際経済に特化したテーマとは基本的に無関係なので注意せよ（研究テーマの例としては、たとえば小西秀樹「公共選択の経済分析」（東大出版会）を参照せよ）。教材には最先端の英文論文や大学院レベルの英文テキストを用いるので、それらを読みこなすのに最低限必要なレベルの経済学、数学についての知識、および英語力を持っていることが必要である。経済学については、①ミクロ経済理論、②非協力ゲーム理論、③計量経済学の基礎を、学部上級レベルで一通り習得していること、数学については、実数解析、線形代数、最適化理論について、最低限、理科系の大学受験レベルで習得していることを受講生に求める。</p>		

研究指導名	経済政策理論研究指導	担当	特任教授 鈴木興太郎 経済学博士（一橋大）
研究テーマ	<p>この演習では、経済政策の基礎理論を学ぶ目的で、以下のような講義とそれに基づく討議を行う予定である。参加者には、ミクロ経済理論に関する十分な素養、論理的に問題を突き詰める思考の能力と意思、多数の参照文献を精密に読む努力を求めたい。</p> <p>第1講 制度と政策の社会的選択 第2稿 多数決投票の逆理とアローの一般不可能性定理 第3講 厚生経済学の新と旧 第4講 社会的選択の情動的基礎：厚生主義とその批判 第5講 厚生と権利：厚生主義を越えて 第6講 選択機会の内在的価値 第7講 選択手続きの内在的価値 第8講 競争・厚生・自由 第9講 責任と補償のパラダイム 第10講 次善の厚生経済学 第11講 世代間衡平性の厚生経済学 第12講 規範的経済学と経済システムの設計</p>		

研究指導名	経済政策理論研究指導 —経済政策のための基礎理論の研究—	担当	教授 松本 保美 D. Phil（オックスフォード大）
研究テーマ	<p>本指導は、時間の制約と重要性の面から、社会的選択理論を中心とした基礎理論の研究に的を絞る。基礎理論の上に経済理論が構築され、その上で経済政策が立案されるからである。日本語の文献が殆どない上に、数理論理学と集合論を駆使した定理の証明が中心になるので、参加者には英語と数学の素養が求められる。ミクロ経済学とゲーム理論の知識のあることが望ましい。いわゆる経済政策論や分析は一切扱わないので注意のこと。本講義は全て英語で行われる。</p>		

研究指導名	公共経済学研究指導	担当	教授 須賀 晃一 経済学博士（一橋大）
研究テーマ	<p>この講義では、修士論文作成のための基礎力養成を目的として、公共経済学の理論に関する基本文献を輪読する。具体的な研究テーマとしては社会的選択、制度設計と価値理念、租税論、社会保障論、環境問題などの領域を考えている。中級程度のミクロ経済学（数学的手法も含む）の修得を前提として講義を進める。開講時まで、スティグリッツ『公共経済学』（上、下）東洋経済新報社、2003、2004年。を読んでおくこと。 参考文献：J. Hindriks and G. D. Myles, <i>Intermediate Public Economics</i>, MIT Press, 2006. B. Salanie, <i>Microeconomics of Market Failures</i>, MIT Press, 2000. A. L. Hillman, <i>Public Finance and Public Policy</i>, Cambridge UP, 2003. J. Leach, <i>A Course in Public Economics</i>, Cambridge UP, 2003. A. L. Hillman, <i>Public Finance and Public Policy</i>, Cambridge UP, 2003. J. Stiglitz, <i>Economics of Public Sector</i>, Norton, 2000. L. Kaplow, <i>The Theory of Taxation and Public Economics</i>, Princeton UP, 2008. R. W. Tresch, <i>Public Sector Economics</i>, Palgrave Macmillan, 2008.</p>		

研究指導名	環境経済学研究指導	担当	教授 有村俊秀 Ph.D（ミネソタ大学）
研究テーマ	<p>応用ミクロ経済学としての環境経済学の研究を、実証研究を中心としたアプローチで行う。そのため、大学院初級レベルのミクロ経済学や、学部水準の計量経済学の知識を前提とする。研究指導では、これらの知識をもとに、関連する論文（英文含む）等の輪読を行う。特に、マイクロデータを用いた計量の手法の習得が必要となる。</p>		

研究指導名	公共政策研究指導	担当	教授 福島淑彦 Ph.D. (Stockholm University)
研究テーマ	<p>本研究指導は、広い意味での「労働経済学」を基礎として、「社会」の厚生水準を高めるための政策や制度について、経済学視点で理論的或いは実証的アプローチで研究する者を対象とする。本研究指導のタイトルは「公共政策」であるが、研究内容は主に「雇用」、「失業」、「人的資本」、「賃金」、「教育」、「訓練」、「労働市場における差別」、「転職」、「家庭内労働」、「労働組合」、「福祉」といった「人が働くこと」に関する政策や制度を中心に、修士論文作成のための研究をサポートする。教材には、英文論文や英文テキストを用いるので、それらを読みこなすための「経済学」「数学」の基礎知識に加えて、英語力が必要となる。</p>		

研究指導名	農業経済学研究指導	担当	
研究テーマ	●2012年度は、学生の募集は行なわない。		

研究指導名	政治経済学方法論研究指導	担当	准教授 清水 和巳
			Doctrat de Théorie Economique Université de Grenoble II
研究テーマ	<p>経済学と政治学は伝統的に異なった学問としてみなされてきた。しかしながら、両学問分野の分析対象は、個々人あるいは個々のグループの意思決定や選択の相互作用の結果生じたものである。このような観点にたち、政治経済学の研究に必要な研究手法—統計分析、数理モデル、実験、シミュレーション、世論調査、規範理論など—の方法論的位置づけを吟味し、ついで、その応用について具体的な政治経済現象の分析例を示す。</p>		

研究指導名	数量経済政策研究指導	担当	教授 貞廣 彰
			経済学博士 (京大)
研究テーマ	<p>本コースはマクロ実証分析を行う上での応用計量経済学を学ぶことを目的とする。前期においては時系列分析にかかるテーマをとりあげる。具体的には、①定差方程式、②定常時系列モデル、③不均一分散 (ARCH、GARCH)、④トレンドを有するモデル、⑤多変量時系列モデル、⑥共和分と誤差修正モデル、⑦基礎的な非線形モデルをとりあげる。</p> <p>また、後期においては、①カルマンフィルターモデル、②周波数分析、③レジーム変化モデル (マルコフスイッチングモデル)、④基礎的なカリブレーションモデルを取り上げる。</p> <p>なお、本研究のためには、学部レベルのマクロ経済学および、計量経済学をマスタしていることが不可欠である。また、汎用性ソフトである EVIES を購入する必要がある。</p>		

研究指導名	数量経済政策研究指導 —ミクロの実証分析—	担当	教授 上田 貴子
			Ph. D. (ウイスコンシン大マディソン校)
研究テーマ	<p>本研究指導では、ミクロデータ及びパネルデータによる実証分析を研究課題とします。実証分析のためには、関連分野の経済理論モデルの理解、統計・計量経済学の知識、及びコンピュータースキルが不可欠となります。研究指導では、(参加者の興味による) 関連分野及び計量経済学手法の英語文献の輪読、関連データのサーチ、計量経済分析ソフトによるプログラミングと分析を行います。なお、パネルデータ分析以外の時系列分析手法は扱いません。</p>		